

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「今年は” M.O.F.ショコラティエ”」
- 2) 「利便性≠エコ？」
- 3) 「天王寺動物園産・天王寺かぶら」

1) 「今年は” M.O.F.ショコラティエ”」

1月27日から伊勢丹新宿店で開催、連日会場が混み合うほどの人気を見せているチョコレートの祭典「サロン・デュ・ショコラ」。約17か国から約70ブランドが出展する国内最高峰の祭典だ。“今だけ、ココだけ”でしか味わえないショコラが多数そろそろ。今年は“オペラ”をテーマとしイメージした演出を行っている。

今年、特に注目なのは“M.O.F.ショコラティエ”たちが作るショコラ。“M.O.F.”とは、「フランス国家最高職人」を差す称号。さまざまな分野があり、3年に1度のコンクール形式の厳密な審査によって選ばれる、日本でいう「人間国宝」に相当する名誉ある称号だという。すべての職人があこがれる地位である。

つまり“M.O.F.ショコラティエ”とはショコラ部門の“M.O.F.”を取得した人のことで、なんとこの取得者はフランス全土で18人のみ（※2009年12月現在の数）。パティシエや一般のファンも一目見ようと来場するようで、中ではサインを涙ながらに受け取る人もいるのだとか。相当な人気ぶりが伺えた模様。

フランスが認める本物の職人たちが集う「サロン・デュ・ショコラ」。もはや芸術とも言える世界最高峰の味を堪能できる祭典は、バレンタインデー前に年々増員する伊勢丹新宿店の大きなイベントとなっている。

世の中は依然不況が続き、バレンタインデーに関する事前アンケートでも昨年より支出を控えめにするという声が多く聞かれたようだ。今年が当日が日曜日であるため「義理チョコ」の需要は減りそうだが、このようなイベントが後押しして”本命一投入魂”で高級チョコレート需要が生まれるのではないか。

2) 「利便性≠エコ？」

自宅にいながら書籍、雑誌、ゲーム、家電、食品、スキンケア用品、音楽CD、DVD、何から何までそろそろ世界最大のインターネットショッピングサイト「Amazon」。しかも当日注文して同日に家に届くのとから、利便性は良い意味で「かなり異常」である。

しかし同時に反エコロジーな意味でも「かなり異常」と言わざるを得ない。というのも、どれだけ小さなものを頼んだとしても、その商品に見合わないような信じられない大きさの箱が届くからだ。そのギャップに驚いた人も少なくないだろう。

たとえば極端な話、プチプチに包んで封書に入れて定形外郵便で出してもいいくらいのサイズであるものを、炊飯ジャーや加湿器などのちょっとした家電を入れて送れるサイズの箱に入れて送っている。

Amazonの日本法人『Amazon.co.jp』には配送ルールがあり、エコロジーではないことを知っていても巨大なサイズの箱に入れて配送しなくてはならないのだと思われるが、ちょっとこれはいただけない。ユーザーに便利だけでなく地球に優しい体制にすることで、自社にとってもコストダウンという恩恵が得られるはずなのだが・・・。

効率や利便性を追求した結果、箱の大きさを商品に合わせるのではなく、決まった箱に商品を入れるということにたどり着いたのだろうが、発注する身としては箱を開けた瞬間何故かとても申し訳ない気になる。商品がすぐに届くのは有り難いが、そろそろ素晴らしいシステムを生み出した”Amazonだからこそできるエコ”に取り組んでもらえればと思う。

3) 「天王寺動物園産・天王寺かぶら」

大阪市天王寺区の天王寺動物園内で30日、なにわの伝統野菜「天王寺かぶら」の収穫祭があった。同園のアジアゾウの糞を使った有機堆肥で育てた「根っからの地元産」。

地元のイメージ向上を狙い、近鉄グループなどが主催。天王寺蕪を校章にする市立天王寺小学校の児童13人が参加し、約50本を「うんとこしょ」と力いっぱい笑顔で収穫した。

蕪は、近くの商業施設「Hoop」で31日開かれるイベントで試食され、葉の部分は同動物園のアジアゾウの餌に。関係者は「子どもらはリサイクルも学べた」と鼻高々。

スーパーではリサイクル堆肥で野菜をそだてているというところは聞くが、動物園内で同じように野菜を栽培しているとは知らなかった。

実は自分は大阪人であるのに、伝統野菜である天王寺かぶらを食べたことがない。でも、こうしたイベントをきっかけに子供たちが大阪にもこんな野菜があるということ、それに加えてリサイクルも一緒に感じることは良いことだと思う。